

貴布禰(きふね)神社の創立年代は不詳ですが、鎌倉時代の初期、伯耆国会見郡一帯の豪族深田氏の祖先が濱中の里(車尾の旧俗称)を開拓しはじめた頃の様子です。

八百年近い歴史の中での、元弘2年(1332)後醍醐天皇が京から隠岐へ配流される途中、川幅200m以上の日野川の瀬を渡り、駐泊される車尾の深田家をめぐす折、ふと輿(こし)が止まった。御簾を上げてみると、右手に小さいが何やら曰く有りげな古い祠(ほこら)が見えた。

この祠は、車尾の村人が心の寄り所として厚い信仰の対象としており、参拝者の出入りが見られました。そこで天皇は自ら参拝して武運長久を祈願され、さらに、伴の者に鞍を敷かせて、それに腰かけてしばらく休憩されました。やがてこの場所は鞍敷(くらしき)と称し、祠は鞍敷大明神と呼ぶようになりました。

この祠は、立地上たびたび日野川の氾濫にみまわれ、あちこちに流失移動したり、しばしば干ばつに苦しめられた氏子たちは、ついに宝永7年(1710)に、雨乞い・雨止み・農耕開拓守護神として靈験あらたかな京都鞍馬山の貴船神社を本社とする“貴布禰神社”に改めました。

流失移転の名残として、「宮ノ前」「東宮ノ前」「北宮ノ前」などの地名が今も残っている。流失をまぬがれ現存する古棟をはじめ、米子市指定の文化財(海池村出身の画僧『とう然』の自筆絵馬)などの絵馬類古棟札類が多数保管されています。

また、境内には天明、明和、文化、文政、天保などに奉納寄進された石灯籠、狛犬(こまいぬ)などが見受けられます。

この狛犬ですが、鳥取県立博物館が、県内の狛犬の特徴を把握するため、調査を行い今年(2011)6月末までに、調査員90名で約670件の狛犬を確認しました。その結果、当社の狛犬が鳥取県最古の制作で天明4年(1784)であることが分かりました。

現在の社殿は明治31年(1898)に車尾、皆生、上福原、中島の氏子によって建立されたものです。平成12年(2000)には境内に460体の玉垣奉納が行われました。



神社の山門



社殿の外観



社号額



拝殿の飾り



絵馬の飾り



朝比奈三郎、曾我五郎の草摺りを抜く図



鳥取県最古の狛犬